

初心者にお勧めする黒松内町

エコ・ネットワーク 小川 巖



参加者も加わって道標を立てる

私が把握しているだけでも、北海道内には約30の市町村にフットパスが出来ている。この数字は、地元でフットパスを歩いたり作ったりする団体・グループが存在する地域だけをカウントしたものである。

最近よくある問い合わせが、「もっともフットパス活動が進んでいるのは、どこですか」、あるいは「フラッシュと出かけて初めてでも安心して歩けるのはどこですか」というものだ。正直言つて、どこも数^キから十数^キのフットパスを作ったり選定するのが精一杯で、ソフト・ハード両面の整備は、これからということが多々ある。ほとんどである。その点、初めて訪れた人でも迷うことなく歩け、魅力

と変化に富んだフットパスのある所はと聞かれば、黒松内町を真っ先にあげることになるだろう。この町のフットパスの取り組みは、それほど古くはない。組織的な活動が始まったのが2004年だから、足かけ4年に過ぎない。

この間に3本のフットパスが完成した。1本が2^キコース、2本が10^キコースである。10^キコースはチョコシナイコースと西沢（にしのみさわ）コースで、第1号である前者は、十数年以上廃道になっていた町道をフットパスとして再生したものである。半分は山越えで、残り半分は農道と河川沿いの道である。当初山越えの大部分は、草やササに覆われていてとても歩ける状態ではなかった。草刈り、ササ刈りから始まった。業者任せの作業ではなく、町民主体のフットパスボランティアの人たちが中心となって手作業で道を開いてきた。

その点、西沢コースは牧草地に囲まれた既設の農道が大部分である。一部は舗装道を含むものの、アップダウンはほとんどなく気持ちよく歩ける。

3本目の2^キコースは、市街地の真ん中を流れる寺の沢川沿いに作られていて、町民の散歩コースとして親しまれている。



フットパスマップの看板

三つのコースを歩いていると、分岐点をはじめとした要所に道標が立っていて、それに従えば確実にゴールに到達できる。足をかたどったユニークなコースサインは、フットパスボランティアのメンバーが考えたデザインである。10^キコースには、30〜40本は立っている。さらに町の紹介マップにはさまざまな施設や道路と共に、これらのフットパスも描かれているので安心して歩ける訳だ。

黒松内町は札幌、函館の中間に位置していて、ニセコから南へ車で40分位で行ける。歩いてみようという方は、町役場企画調整課（TEL：0136・72・3311）に問い合せるとよい。